

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道45号 三陸沿岸道路 <small>とよましづがわ</small> (登米志津川道路)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：宮城県登米市中田町浅水 <small>とめしなかにだちょうあさみず</small> 至：宮城県本吉郡南三陸町志津川字小森 <small>もとよしぐみなみなさんりくちょうしづがわあざこもり</small>	延長	16.1km		
事業概要 三陸縦貫自動車道は、宮城県仙台市を起点とし、三陸沿岸地域を経て、岩手県宮古市に至る延長約220kmの高規格幹線道路である。 登米志津川道路は、三陸縦貫自動車道の一部を形成し、三陸沿岸地域の広域的な交流・連携の促進、災害時におけるリダンダンシーの確保等を目的とした道路である。また、復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路として早期の整備を図ることを目的とする。					
H6年度事業化		—		H15年度用地着手	
H16年度工事着手		—			
全体事業費	390億円	事業進捗率	67%	供用済延長	5.0km
計画交通量	12,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 2.3 (残事業) 3.9	(残事業)/(事業全体) 127億円/451億円 〔 事業費：92億円/400億円 維持管理費：35億円/51億円 〕	(残事業)/(事業全体) 500億円/1,054億円 〔 走行時間短縮便益：329億円/804億円 走行経費減少便益：116億円/178億円 交通事故減少便益：56億円/72億円 〕	平成23年	
感度分析の結果 【全体事業】 交通量変動：B/C=2.9~2.1(交通量 ±10%) 事業費変動：B/C=2.3~2.3(事業費 ±10%) 事業期間変動：B/C=2.2~2.4(事業期間±20%) 【残事業】 B/C=4.9~2.8(交通量 ±10%) B/C=3.7~4.2(事業費 ±10%) B/C=3.8~4.1(事業期間±20%)					
事業の効果等 ・安全で安心な暮らしの確保 (石巻赤十字病院(3次救急医療施設)へのアクセス性向上が見込まれる) ・災害への備え (大雨による冠水及び津波浸水区域(東日本大震災)を回避するルートを形成し、災害時のリダンダンシーを確保する) 他10項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見 ○宮城県知事の意見 継続実施に異義はありません。 ○以下の団体等から、登米志津川道路の整備促進について要望あり。 ・宮城県知事 ・宮城県気仙沼市長 ・宮城県南三陸町長 ・気仙沼・本吉地方三陸縦貫自動車道事業化促進連絡協議会(気仙沼市長、南三陸町長) ・気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会(南三陸町婦人団体連絡協議会 他12団体) ・三陸縦貫自動車道・アクセス道路建設促進期成同盟会(石巻市長、女川町長) ・三陸沿岸圏商工団体連絡会議(気仙沼商工会議所会頭)					
事業評価監視委員会の意見 対応方針(原案)どおり「継続」が妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・南三陸町は、東北地方太平洋沖地震の津波により甚大な被害を受けた地域があるが、当該事業の目的である「津波浸水区域の回避」、「災害時におけるリダンダンシーの確保」、「広域的な交流・連携の促進」による地域住民の安全安心の確保については、事業採択時より変わるものではない。また、復興道路として位置づけられたこともあり、早期の完成を目指す。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・事業進捗率67%(うち用地進捗率98%)					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・事業の進捗に係る問題はない。					
施設の構造や工法の変更等 ○新技術の活用によるコスト縮減を図る。					

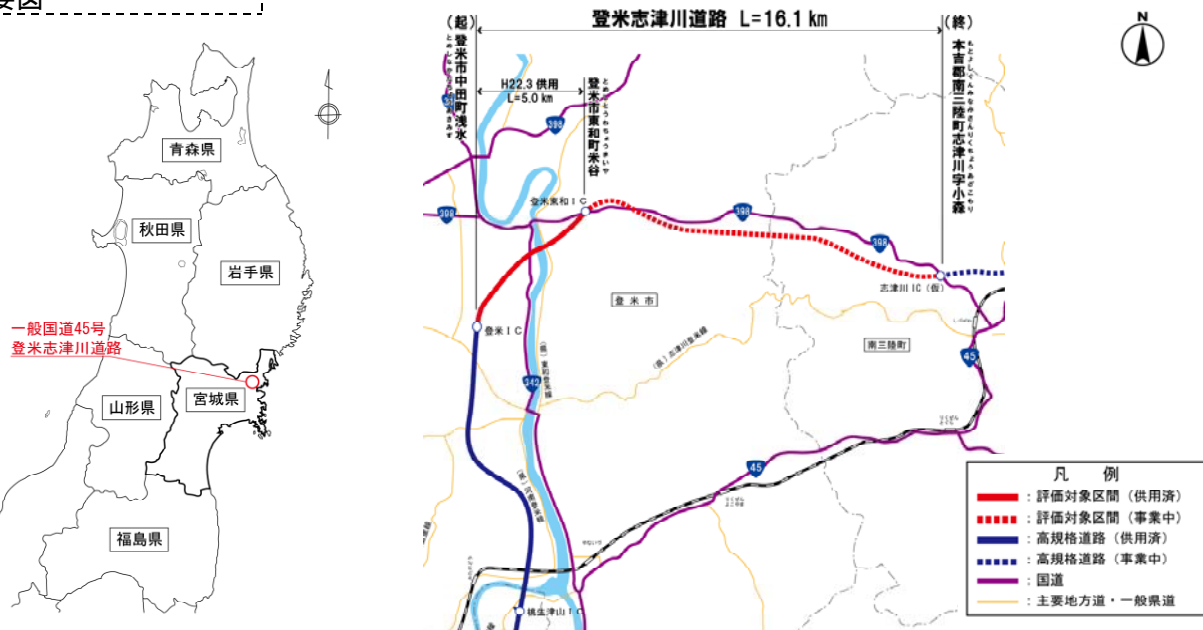
- ・トンネル内のコンクリート舗装をスリップフォーム工法によりコスト縮減。
- ・耐候性鋼橋梁の採用による維持管理費のコスト縮減。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。